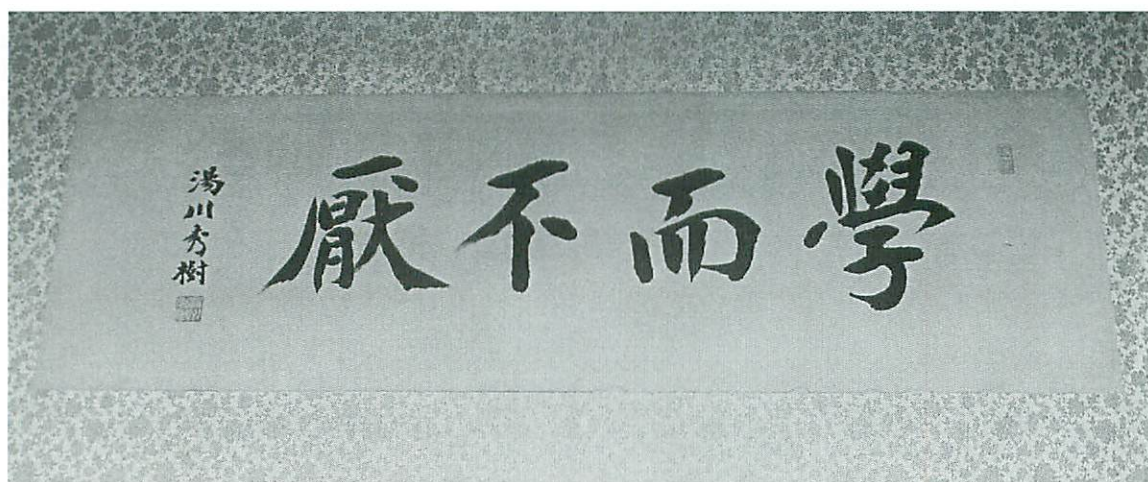


# 学校所蔵の書 拝見

金沢市立城南中学校



ノーベル物理学賞を受賞された湯川秀樹博士の書。科学教育を尊重する城南中学校のために、病気をおしてご揮毫されました。

## 『第23回石川県書写書道教育研究大会集録』の発刊よせて

石川県書写書道教育連盟会長  
第23回石川県書写書道教育研究大会長  
宮下 孝晴

前会長の藤 則雄先生から石川県書写書道教育連盟会長の大任を引き継ぎ、今回で三度目を迎えました。開催日程が一月末にずれ込んだため、吹雪でなければよいがと心配ばかりしていましたが、当日はこの時期の金沢にしては不思議なくらいに朝から「澄んだ青空に明るい太陽」の穏やかな一日に恵まれました。会場が尾崎神社と目と鼻の先にある金沢大学サテライトプラザ（西町研修館）であったので、尾崎神社の御加護があったのかもしれません。そして、お天気ばかりではなく、藤 則雄名誉会長をはじめ相談役の法水光雄（福井大学）教授、押木秀樹（上越教育大学）准教授という心強い応援団が駆けつけてくれたお陰もあって、冒険的な取り組みにチャレンジした第23回石川県書写書道教育研究大会は一つのエポックを刻むことができたのではないかと自負しています。

一つは小学校・中学校・高等学校の実践的教育現場と、教員養成を目指す金沢大学の人間社会学域学校教育学類の「書写書道基礎」科目を接点に、授業に参加した学生たちを含めてのパネルディスカッションが実現したことです。パネルディスカッションに参加してくれた四人の学生諸君の自主性、積極性なしには、本大会のチャレンジは空砲に終わったかもしれません。限られた時間の中で各パネリストの意見や感想を効果的にかみ合わせて十分な成果を導き出せなかったのは、コーディネーター役を務めた私の責任もあるでしょうが、書写書道教育の諸問題を大学教育という場で（次世代の教員をめざす学生たちとともに）議論することの意義については満場一致で認めていただけたと思います。

小学校・中学校・高等学校において、今まさに書写書道教育に取り組んでいる中川晃成、岩田稚子、水上真由美の三先生を大学の非常勤講師に招き、「書写書道基礎」科目を担当してもらうことにした金沢大学の折川司准教授。そこには実際の教育現場を踏まえた授業を展開しようとする「思惑」があったでしょうが、現実には、書写書道に関する多くの科目を大学が開講できないというカリキュラム上の問題を解決する苦肉の策でもありました。しかし、今回のパネルディスカッションに参加してくれた学生たちの感想から、「書写書道基礎」科目は明らかに折川司准教授の「思惑」以上の授業効果を上げていることがわかりました。今回の企画を「序章」として、次年度からはテーマを絞り込み、しばらくは継続的に学生参加型パネルディスカッションを軸として、書写書道教育問題の核心に迫るような研究大会を目指していきたくと考えています。

もう一つの収穫は、岐阜市立三輪南小学校の戸崎浩志先生がご自身の「児童の気付きを大切にした毛筆指導」を報告してくださり、石川県という地域の枠を超えて書写書道教育の問題をいっしょに考える機会をもてたことです。

最後に、平成24年度における各種の活動や研究大会の開催に多大のご尽力をいただいた実行委員や本誌の刊行、本連盟の運営に携わってこられた役員の方々、ならびに今大会で発表された諸先生方から感謝の意と敬意を表します。

目次

学校所蔵の書拝見	
1. 『第23回石川県書写書道教育研究大会集録』の発刊によせて	1
2. 第23回石川県書写書道教育研究大会要項	3
3. 研究協議会Ⅰ	7
第37回全日本高等学校書道教育大会 東京大会 報告 出場 康仁	
4. パネルディスカッション	12
5. 研究協議会Ⅱ	21
「児童の気付きを大切にした毛筆指導（6年）～気付かせる手立てと指導のポイント～」 戸崎 浩志	
研究協議会Ⅱまとめ	
6. 大会に参加して	29
松井 由紀（金沢市立伏見台小学校） 石塚 悠子（金沢大学学校教育学類国語専修2年）	
7. 石川県書写書道教育連盟のあゆみ	31
8. 平成24年度石川県書写書道教育連盟役員一覧	38
9. 石川県書写書道教育連盟規約	39

## 第 2 3 回 石川 県 書 写 書 道 教 育 研 究 大 会 要 項

平成25年1月31日(木)

第23回

# 石川県書写書道教育研究大会

金沢大学サテライト・プラザ(西町研修館)

## 大会テーマ

「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」  
— 実践教育科学としての「書写書道」をめざして —

主催：石川県書写書道教育連盟

後援：石川県教育委員会

：金沢市教育委員会

：石川県私立幼稚園協会

## 日程

13:00~13:30  
受付

13:10~13:30  
理事会

13:45~  
13:55  
全体会

14:00~16:00  
研究協議会 I

16:10~16:40  
研究協議会 II

## 全体会

[13:45～13:55]

挨拶：石川県書写書道教育連盟 会長

## 研究協議会 I

[14:00～16:00]

### 書写書道教育と書の芸術性

① 第37回全日本高等学校書道教育研究会（東京大会）参加報告

発表者 出場 康仁（石川県立飯田高等学校）

② パネルディスカッション

「大学生とともに考える：書写書道教育に大切なものとは？」

～ 教員養成科目「書写書道基礎」の実践を通して～

コーディネーター 宮下 孝晴（金沢大学人間社会学域人文学類教授）

パネリスト 折川 司（金沢大学人間社会学域学校教育学類准教授）

中川 晃成（野々市市立館野小学校）

岩田 稚子（金沢市立高岡中学校）

水上真由美（石川県立金沢伏見高等学校）

参加大学生 金沢大学人間社会学域学校教育学類

司会：田中 学（石川県立金沢中央高等学校）

記録：北野 京子（津幡町立中条小学校）

## お宝拝見

～ 石川県の学校所蔵作品を訪ねて ～  
〈金沢市立馬場小学校編〉

研究協議会Ⅱ [16:10～16:40]

授業実践に向けての具体的手だてを探る ～授業実践から～

③ 実践発表 「児童の気付きを大切にした毛筆指導」

～気付きさせる手立てと指導のポイント～

発表者 戸崎 浩志 (岐阜市立三輪南小学校)

司 会： 西脇 良樹 (志賀町立下甘田小学校)

記 録： 岡山 佳代 (かほく市立宇ノ気小学校)

研究協議会 I



## 第37回全日本高等学校書道教育大会 東京大会 報告

石川県立飯田高等学校

出場 康仁

大会テーマ：「伝統を継承し、文化を創造する書道教育」

会期：平成24年11月15日（木）～16日（金）

11月15日（木）——第1日目——

・研究授業

「漢字仮名交じり書の学習～藤原定家筆『更級日記』の書風を生かした表現～」

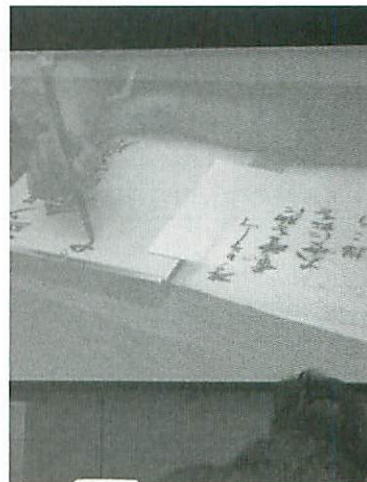
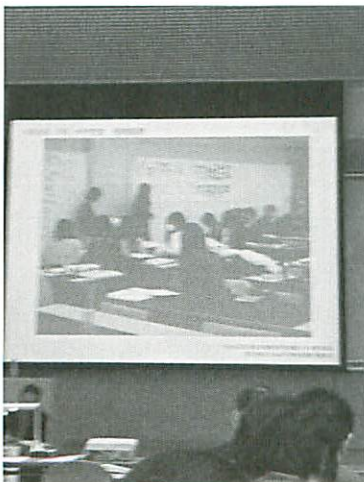
（大東文化大学第一高等学校：佐藤敦子先生の授業風景）

<単元設定理由>

国語（古文）の授業との関連をさせ、歌人である定家の人となり进行学习し、文学を解釈した上で、漢字仮名交じりの書表現する。定家筆「更級日記」に見られる仮名と交える漢字の書法のあり方を学び、幅広い表現の能力を高めることを目的として設定した。

<単元の目標>

1. 書の伝統と文化に関心を持って、主体的に「更級日記」の表現や鑑賞の創作的活動に取り組む。
2. 「更級日記」のよさや時代性を感じ取り、感性を働かせながら自らの意図に基づいて構想し、表現をする。
3. 創造的な書の表現をするために、「更級日記」の表現を生かした漢字仮名交じりの書の効果的な表現の技能を身につけて表している。
4. 漢字仮名交じりの書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、名筆の良さや美しさを創造的に味わっている。



<授業と評価の計画>

時間	ねらい・学習活動	評価方法等
第1次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「更級日記」の時代背景について理解する</li> <li>・「更級日記」の冒頭について内容を理解する</li> </ul>	観察、 ノート
第2次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習内容を想起する</li> <li>・単体・連綿や全体の構成などについて理解する</li> <li>・変体仮名について理解する</li> <li>・基本的な用筆法、運筆法を理解する</li> <li>・「更級日記」の冒頭を臨書する</li> <li>・自己批正する</li> <li>・本字の学習内容を確認する</li> </ul>	観察、 自己評価シート (第1回)、 作品
第3次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習内容を想起する</li> <li>・平安時代、鎌倉時代の書について書風を比較する</li> <li>・「更級日記」の書風を踏まえ、表現をする</li> <li>・本校50周年記念『希望の光(生徒の歌)』の内容</li> <li>・『希望の光』より、制作箇所を選ぶ</li> <li>・集字した資料を用い、草稿を作成する</li> </ul>	観察、 草稿用紙、 制作意図カード、 ノート
第4次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習内容を想起する</li> <li>・余白を考えて構成を試みる</li> <li>・漢字と仮名の調和を考えてさらに構成する</li> <li>・自己批正する</li> <li>・本時の学習内容を確認する</li> </ul>	観察、 自己評価シート (第2回)、 作品
第5次 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習内容を想起する</li> <li>・「更級日記」の書風を再確認する</li> <li>・草稿をもとに練習する</li> </ul>	観察、ノート、 自己評価シート (第3回)、作品
第6次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習内容を想起する</li> <li>・草稿をもとに清書する</li> <li>・自己批正する</li> <li>・本時の学習内容を確認する</li> </ul>	観察、 自己評価シート (総合)、 作品

<授業を見学して>

公開授業では、ホールの中央に長机が15脚用意され、5名ずつ3列で三方より見学となりました。撮影及び近づいて見ることは禁止というアナウンスがあった為、生徒の筆使いが直接見れず少し残念でした。男子生徒は上着を着たままの生徒、ワイシャツの生徒、袖を捲っている生徒など色々でした。皆さん、周りから見られる中、真面目によく取り組んでいるなと思いました。この授業を見学して、自己評価カードを取り入れさせてもらいました。

<大学の授業を見学して>

高校の50分授業終了後、急いで永守先生の授業を見に行きました。既に教室は一杯でしたが、なんとか後ろの方で見学ができました。17名の学生の皆さんが夏に制作した作品とさらに練習した作品を展示して、自分で批評し、その後、先生の批評を受けておられました。やはり、練習は大切だと改めて思いました。また、こうして高校と大学の授業を2つ見学でき、とてもよい勉強となりました。

最後に永守先生のお話の中で、先生の師である方は、居るだけで大きな空気を醸し出しておられたこと等を聞き、また1つ大きな目標をいただきました。

(この後、研究協議・教育懇談会が行われました)

11月16日(金)——第2日目——

<多目的ホールで4名のパネリストによるシンポジウム、来年の静岡大会大会長からのお話がありました>

◎特別展示・大東文化大学書道研究所蔵「宇野雪村文庫コレクション」(大東文化会館、1Fホール)を見学して…別紙資料参照

■宇野雪村 1912(明治45年)～1996(平成8年) 兵庫県生まれ

◆昭和30年～昭和60年：大東文化大学に奉職

1955(昭和30年)：大東文化大学文学部兼任講師

1956(昭和31年)：大東文化大学文学部専任講師

1973(昭和48年)：大東文化大学文学部教授

1985(昭和60年)：大東文化大学文学部教授を定年退職



1949(昭和24年) 第5回日展特選

1950(昭和25年) 第6回日展特選

1957(昭和32年) 井上有一、上田桑鳩、宇野雪村らが「日本前衛書作家協会」創立

1984(昭和59年) 毎日芸術賞受賞、勲三等瑞宝章

1985(昭和60年) 紺綬褒賞

・宮里先生の説明を聞きながら、たくさんの拓本などをみせていただきました。たくさんの拓本を直にみせていただき、用意された手袋でめくって鑑賞も出来、嬉しかったです（前もって連絡しておけば、生徒の皆さんにも鑑賞させてもらえるそうです）。

#### <大会に参加して>

この2日間は、2年前より願っていた全国大会に参加でき、色々初めての経験があり、刺激もたくさんいただき、良い研修となりました。第1高等学校の佐藤先生、大東文化大学の永守先生、宮里先生、そして係の方々に大変お世話になりました。また、大東文化大学よりたくさんの無料資料の提供があり、数冊もらって帰りました。ありがとうございました。

この研修を終え、中学校にも音楽・美術と共に独立した書の科目が設置されれば良いなと感じました。そして、書の授業を通し、生きる力、礼儀作法など身近な道徳を伝えられるよう、自分自身がより深く、色々経験・勉強し幅を広げていきたいと思いました。

最後に、小・中学校の書写の先生方と共に連携しながら、児童・生徒の書写書道能力の向上を図り、そして生活に生かし、将来また書をやってみたくなるような授業を大きな雰囲気の中で出来るよう、これからも尚一層頑張りたいと心に決めました。

### 第37回全日本高等学校書道教育研究会（東京大会）参加報告への

#### 質疑応答・感想

- シラバスのどの部分を参観したのか。  
→二学期、漢字仮名交じりの書の学習② 名筆を生かした表現方法で
- 仮名を学習する前であるが、生徒にとまどいはなかったか。  
→戸惑うことなく黙々と取り組んでいた。
- 資料には、書道Ⅱのシラバスしかないが、書道Ⅰで仮名の臨書を学習しているので戸惑いはなかったのかもしれない。
- 漢字仮名交じり文の学習では、始めに漢字があつて次に仮名が生まれた過程を知ることが大切。和漢朗詠集は、漢字は丸みを帯び、仮名と手をつないだ表現となっている。臨書したり、鑑賞したりするとよい。  
展覧会で、漢字・仮名と部門が分かれているのはおかしい。また、展覧会では、読めない漢字、仮名が多いが、読めるものを書くことが大切。
- 資料では、評価方法はあるが、評価の観点が明確ではない。1時間ごとのねらいと何を評価するのか明確にすること、評価の工夫をすることが大切。

## パネルディスカッション

### 「大学生とともに考える：書写書道教育に大切なものとは？」

#### ～教員養成科目「書写書道基礎」の実践を通して～

コーディネーター	宮下 孝晴（金沢大学人間社会学域人文学類教授）
パネリスト	折川 司（金沢大学人間社会学域学校教育学類准教授）
	中川 晃成（野々市市立館野小学校）
	岩田 稚子（金沢市立高岡中学校）
	水上真由美（石川県立金沢伏見高等学校）
参加大学生	金沢大学人間社会学域学校教育学類2年生 4名

（敬称略）

#### 宮下

中川先生から金沢大学で「書写書道教育基礎」という科目の授業をすると聞き、お願いして授業を参観させていただいた。

「書」は大きな魅力をもっている。その魅力と文化を次の世代を担う小中学生に何とか伝えたいと私たちは望んでいる。一方で、生徒たちは筆ばかりか鉛筆さえ持つ時間が少なくなり、キーボードをたたく時間が増えている現実がある。時代がどんどん移り変わっている中で、あるいは感覚の世界も大きく変化しつつある中で、教員を目指す学生たちが教壇に立って、子どもたちに書の魅力なり、書の文化をどう伝えていくべきか、その将来的な方法を早急に考えなければならない。

たとえ、学生たちに習字を一からたたき直し、鍛え上げ、筆をもつ腕に自信をつけさせるような授業をしたとしたら、今の学生たちは喜ばないばかりか、ついてもこないだろう。しかし、中川先生・岩田先生・水上先生の授業では、学生たちから自然に拍手が起こった。日々、小学校中学校高校で、子どもたちの指導に本気でぶつかっている先生方が大学の教壇に立ったとき、学生たちが受け止めるものというのは、大学の教員のいわゆる専門性の高い授業とはまったく別の受け止め方をしているのを目の当たりにして驚いた。

近年、金沢大学ばかりでなく学生たちが書写書道の授業を受けるという機会は、ほんとうに少なくなってしまった。そうした状況の中で学生たちに何を伝えたらいいのか。シンプルに、本質を突いたものを学生に伝える必要がある。それが学生の中で新しい可能性の芽となる。学生たちは自分たちが何をどう子どもたちに教えたいかをはっきりと把握し、かつて我々が習ったようではなく、新しい時代の感性に裏打ちされた新しい指導法を開発するだろう。そうやって初めて、我々がずっと大切にしてきた書の伝統、筆の文化をこれからも長く伝えていくことができる。

#### 折川

「書写書道基礎」においては、国語科を担当する教員を志望している学生たちが、教壇に立つ上で必要となる書写指導の基礎知識や技能、たとえば国語科教育における書写の位置や他領域との関連、教育現場における指導の現状などを、実技とともに学んでいる。中学校国語科書写の指導に関する内容が核となっているが、中学校の指導内容に留まらない。隣接す

る校種における書写書道の学習指導がどのようなものであり、何に留意して実践されているのかといったことにも目配りをしておいた方がよいのではないかということから、実際には小学校や高等学校の内容も取り上げている。

今年度は、中川先生、岩田先生、水上先生3名の先生が、それぞれ3時間ずつ授業をし、残りの6時間分を私が担当している。評価は、講義・演習への取り組み50%、授業目標に対応する課題についての小レポート等50%というような割合で評価している。

## 中川

現在5年生の担当をしているので、5年生の書写の授業を中心にお話した。

まずは3年生の一番最初の授業のつもりで、姿勢から準備、唱え歌まで、いろはをお話した。次に「世界平和」という文字の「手書きのお手本」と「教科書で使われている文字のお手本」とを書き、「どちらの方が書いているとき楽しいですか」と尋ねた。毎年、「教科書じゃないお手本の方が、なんかすごく楽しかった」という返事が返ってくる。「どうして」と聞くと「なんか人間が伝わってくる」と、とても大事な感覚をお話ししてくれる方が多い。

書写の授業の実際の所では、いろんな先生が、いろんな教具を使って行っている、自分の足りないところを補う方法を紹介した。指導書にはすばらしいCDがついてくるようになり、パソコンをつなぐだけで指導できる。練習用紙も、今は、いろんな練習用紙が作れるようになっている。また、「卒業一字書」という、自分の名前や大好きな字を白抜き文字でわくわくして書いてもらい、一生大事に持っていたくなるものを作る取り組みなども紹介させていただいた。

金沢で書写書道教育研修会を開くことになった時、現在、福井大学にいらっしゃる法水先生が、当時福井大学の名誉教授になられた杉本先生をお招きして、受講した。杉本先生はいい「どうしなさい」とか「どうしよう」という話はなく、ただ「うまいぞ。うまいぞ」と繰り返されていた。「ここがうまく書けないのに、どうしてうまいんですか。」という人が出た時に、初めて「うまいなあ」以外の言葉が話されて、「ここはなあ、こうすればいい。」と教えられました。学び手が学ぶ意欲を高めた時に、指導の手をぐっと差し出す。殻をつつく雛を外側から親鳥がつつく「啐啄同機（時）」である。褒めきるといのは本当に難しいが、楽しい授業とはどういうものかを伝えたかった。楽しいというのは、自分の変化に気がつくことではないかなというのが、私の考えである。

最後に「小学校と中学校の書写の時間は地獄でした。うまく書こうと思っても書けなかった。でも今日はとても楽しかった。」「書写を好きになりたいです。書道を好きになりたいです。」という感想をいただけたことが強く印象に残った。

## 岩田

私の1回目の講義では書写の目標から話をした。今年度から指導要領が変わっている。最初は、「文字を正しく整えて速く書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるように配慮すること」の最初の3文字、「整・正・速」について話した。次に、「毛筆の書写の指導は、硬筆による書写の能力の基礎を養うようにすること、時数が「1年生2年生で、年間20単位時間程度、3年生では10単位程度」に変わったことを話した。その後、書写教育の問題点、これからどうあるべきかというようなことを、資料をもとに話した。用具・姿勢・筆の持ち方・鉛筆の持ち方が学べるDVDがあることも紹介した。また、「比」を例に、書き文字と活字体の違いを話し、実際に書きながら自己評価や相対評価を体験してもらった。

学生から、「書く時間が少なかった」、「もっと書きたい」という感想が半分ぐらいあり、

2回目は書く時間をたくさんとり、許容体や行書への流れとして五つの書体の話をした。また、書写と総合的な学習の関わりということで、金沢出身の明治時代の有名な書家である北方心泉さんを学習したこと、小將町中学校近くの常福寺へ拓本をとりに行ったことなどを紹介した。行書の指導では、DVDを見せて、5つの特徴をつかんでもらった。さらに、行書の「花鳥風月」というのを、最初何も見ずに書き、そのあと、教科書を見ることで、自分の悩んだところが、教科書で学べるということを感じてもらった。

最後の3回目は前回までの振り返りをした。5つの書体のこと、北方心泉さんのことについてふりかえりが多かった。その後、書写の日常化について話した。篆書の話をし、消しゴムに自分の名前を彫って、印を作った。作り方を説明したあと、篆書辞典を一人一冊使って自分の文字を彫った。そして、自由に書いた色紙の作品に自分の印を押して完成した。更に、文字を書いた理由を添えて1枚出してもらった。作品となって残ることで、楽しかったという感想が多かった。

## 水上

小中学校で国語科書写として位置づけられ学んでいるが、高校では芸術科書道としてどのような目的を持って授業を行っているのか、実際の授業に基づいて話をした。

1回目はまず書を学ぶ上で「目的をしっかり持つ」ということについて話をした。単にうまく書くのではなく、何を学ばせるのかという目的を持たないとぶれてしまって何も身に付かなかったということになる。そこで、一つの文字を分析し、教える立場で、この文字から何を伝えたいかという視点を持って分析してもらった。教材は楷書の「孔子廟堂碑」と「九成宮醴泉銘」である。最初に「この二つの作品のどちらが好きですか」と生徒に聞く。ここで、見る目と感じる心を育てたい。単純な質問だが、この質問によって生徒はじっくり作品を見る。全員答えることができ、見る力がついていると分かる。このように、どうしたらじっくり見ることができるかという視点はずっと持ちながら授業をしている。次に、教材分析を学生にしてもらった。その字の魅力をたくさん指摘し、一番教えたいことは何かということに話をしぼりながら進めていった。その後、行書について、気脈や連続線など、楷書では学ぶことができないところに着目して教材分析した。文字の魅力、豊かさについて感じ取ってもらいたいと思った。

2回目は、学ばせたいことを効果的に伝えるために、自分でパソコンで作成し、授業で使った教材について紹介した。仮名の書「升色紙」は作品が小さく、構成の美しさがなかなか分かってもらえなかった。そこで、パソコンで取り込み作成した教材を使用することでバランスや構成の美しさを伝えることができた。また、創作の授業では手本がないのでどちらに向かっていけばいいのかというところが難しいが、何を書きたいのか何を表現したいのかというところがスタートだと思う。まず書きたいものを見つけるということ、それからどうしたら内にある感動を表現できるか、ということを考えて作った教材を紹介した。「イメージによって、思いによって作品は違ったものになる。」ということを学んでほしいと思い作成した。

3回目は大字書を全紙サイズの紙に大きな筆で書いてもらった。表現にも様々な方法があり、自己表現の楽しさを感じてほしかった。私が大学時代の法水先生の講義を受けたときに、法水先生が実際に書いて見せてくださった時の感動が残っている。私が皆さんの前で「愛」という字を書いてみせた後全員に一枚ずつ書いてもらった。生き生きと楽しんでいる姿や、緊張で思いを高めて書いている姿が印象的だった。最後に講義の感想や、書写書道教育についての考えなどを書いてもらいまとめのレポートとした。



## 折川

「書写書道基礎」という授業は、学校教育学類でたてている唯一の書写書道に関する授業である。そのため、書写書道教育学を専門とする先生がいらっしやった頃と比べると、内容的にはかなり限られたものとなっていることは否めない。しかし、書写という手書きの営みを洗練していくことの意味や、実生活を意識した実用的な意味での価値に気付かせていくことはできているのではないかと思う。

## 宮下

中川先生・岩田先生・水上先生に共通していることは、あくまでも筆で書いた文字、あるいは筆で書いた文字の線、その魅力をベースにして授業を組み立てていることである。中川先生は「毛筆で書いたというところに意義がある、それが書の魅力なんだよ」と何度も繰り返し伝えていた。学生たちは、素直に、また新鮮な目で筆を運んでいくとき生まれてくる線や形のおもしろさを楽しんでいた。水上先生の授業になるとこれは鑑賞教育そのもので、芸術の「書」を分析したり比較したりして、鑑賞する力や表現の基礎を養っているんだな、それを創作に生かそうとしているんだなと感じた。すでに書写教育ではなく、明らかに狙いは芸術書道の世界への導入にあると思った。

～講義を受けた学生より～

## 石塚

今まで小学校中学校では、お手本を渡されて、お手本に近づけるようずっとそれを書いていた。失敗した文字が積もっていくことにすごくいやな思いを感じていた。しかし、中川先生は、「失敗した文字でも自分の文字だよ」というふうに教えてくださった。失敗した文字をとっておくことによって、自分の成長過程が見られるところに、書写っていいなとすごく新鮮に感じました。

## 宮井

中川先生の授業を受けたときにデジタルコンテンツを生かした授業について教えていただき、こうした教材を使って教えることもできるんだと知って少し安心した。

## 坂田

この15回の講義を通して、1番感じたことは、不安が払拭されたということである。私は書道教室に通った経験もなく、字も上手に書けるほうではない。小中学校の書写書道の授業は、お手本に近づける書写、毛筆だったので、いやで仕方なかった。書写書道は、字が上手で書道の経験がないと教えることができないと思っていた。しかし、5人の先生方の講義を通して、上手な人が教えられるとは限らない、デジタルコンテンツというのもあるし、お手本に近づけることだけが、書写書道で教えることではないということに気付かされた。

## 高森

私は、書道を小中と習っていたので、苦手意識がなく、書写書道を楽しんで受けてきた。しかし、大学に入っているいろんな人と知り合って、みんながそうじゃないということが分かった。教室の後ろに貼られていやな子もいるので、得意な目線から教えるだけではだめだと改めて感じさせられた。

講義は、毛筆にウエイトが置かれていたが、実生活に生かす、学習指導要領で言われる「生きる力」と結びつけるのであれば、実生活では筆を使う機会より、シャープペンや硬筆を使う

機会が多いので、毛筆と硬筆のつながりや、硬筆の教え方というのも、お話が聞けたらよかった。

### 宮下

学生たちの感想を聞いて思うことは、「書」に対する苦手意識をもった学生も教員免許を取るために授業に出ているので、そうした学生たちの大きな不安を払拭してあげることが教員側、指導する側の大事な役割であると考えます。不安を取り除くことで、学生たち自身が書や、文字を書くことに対する魅力を感じ取り、その魅力を生徒に数年後にどう教えたらいいか、工夫してくれるに違いない。中川先生が実践されたように、とにかく朱で○をつけて「うまいじゃないか」と徹底的に褒めちぎるというやり方もある。そして、子どもたちの中から「先生は褒めるけど、僕はいいと思わない。先生は本当にいいと思っているの」といった意見が出てきたとき、初めて真の対話ができる。それは、「ここだめだね。こうしなきゃ」と、初めから否定して指導するのとはまったく違う次元からスタートする教育である。

中川先生の授業を最初に見た時、これはいい授業を見せてもらった、大学ではこんな問題があるのかと、研究室に戻ってすぐにパソコンのキーボードを打って、次の10項目をメモしたので紹介する。

- ①限られた時間枠の中で、書写書道教育を目指す学生たちに何を伝えるか：  
大学の授業では、そこをもっと整理して絞り込むべきである。
- ②限られた時間枠を有効に生かすための（大学の）カリキュラムはいかにあるべきか：  
金沢という伝統的な日本文化を誇る町にあるのに、金沢大学には書道の先生も日本美術史、東洋美術史の先生もいない。金沢の文化を伝えるべき教員がいない。これは何かしなければと美学の授業で、謝赫（しゃかく）の「古画品録」の中にある気韻生動、骨法用筆などの六法を教えることにした。書を含む東洋美術や日本美術の授業そのものはないが、他の授業とのコラボレーションを工夫したり、ゼミや実習などで美術館に連れて行き、実際の作品を前にした鑑賞授業をするなどの工夫が必要である。
- ③基礎的な「書」に対する教育を十分に受けてこなかった学生たちへの対応はどうすべきか：  
学生たちの大半が「書」に対するコンプレックスを抱えながら、免許取得のためにこの授業を受けている。そのような学生たちの状況をまず前提としてカリキュラムの内容を考える。
- ④書写教育に自信のない学生に対して自信をもたせるには、どうすればいいか：  
自信のない先生が機械的に教えても、子どもたちは何も得ない。教え方以上に、先生が自信をもって子どもたちに語りかける何かを把握している必要がある。その「何か」だけは伝えたい。
- ⑤教科書及び指導要領の内容（本質）を実際に授業を担当する教員の立場で、どのように汲み取らせるか：  
中川先生・岩田先生・水上先生の3人の先生方は、ベテランであり、教科書、指導要領の内容・本質をしっかりと汲み取って、それに振り回されることなく、自分で消化して、授業を組み立てていくことができる。しかし、経験の浅い教員は、どうしても

教科書・指導要領に振り回されてしまい、その言葉の背後にどんな本質があるのかということのを忘れがちになる。そういうところを大学では、しっかり教えなければいけない。

⑥高校における芸術科「書道」を小中学校の延長線上に置くことに問題はないか：

小中学校まで習ってきた書写と、高校の書道は大きく違う。小中学校までは、褒められて○をつけられていたのが、全部×になるということもある。芸術科「書道」とのギャップに、一部の生徒たちは大きな戸惑いを感じているだろう。

⑦教師が実際に筆で書くところを生徒に見せることは、どれほど重要であるか：

書くところを見せることが本当に必要なのか。多くの方は「絶対に見せた方がいい」、「生徒の手を持った方がいい」と言うかもしれないが、何も分からない者に見せても意味があるとは思えない。見せるということは大事に違いないが、見せない方法だってあるかもしれない。いろいろな方法があるということをも前提に指導法を考えなければならぬ。

⑧開発されつつある最新の（とくにPC利用）指導ツールを実際の教育の中でどう位置づけ、どのような場合に、どのように利用すればよいか：

すぐれもののデジタルコンテンツ、教材が開発されている。これを教育現場でどう位置づけたいのか。それを活用した授業・教育法についても、しっかりと考えなければいけない。

⑨書写書道教育における生徒たちに対する成績評価は、どのような観点に立ってなされるべきか：

評価せず、指導だけしているのであれば教育は楽しい。しかし、学校教育では評価の問題を切り捨てるわけにはいかない。書写書道教育に対する成績評価は難しいが、評価を考えることで指導目標が見えてくるだろう。

⑩大学の「書写書道教育」関係のカリキュラムにおいて、必須の教育内容とは何か：

大学での「書写書道教育」に関するカリキュラムはどのような内容を含んだものであればよいのか。現場の先生が日々研鑽して、研究会で自分たちの問題をどうしたらいいだろうかと仲間たちと研究しあう以上に、卒業してすぐに教壇に立つかもしれない学生たちの問題（つまり大学のカリキュラム問題）は、もっと切実である。

～会場の参加者より～

**押木**

何年前か、金沢大学での実践を一度この会で研究集録に載せさせていただいた。当時はたくさん授業科目を持っていたが、現在は一つしかない。しかし、内容は充実していることを知り、安心した。

今私たちはこの時代に生きていて、国語科書写という枠と芸術科書道という枠の中で教育活動を行っている。でも私たちは、少なくとも三千年間、書くというところまで行っている。書くというところの教育は、その時代その時代いろんな法則の中で行われてきている。たまたま今私たちは、国語科書写・芸術科書道の枠で教える時代に生きていて、情報機器が一斉に普及していく中で生きています。それでは、百年後に同じ枠で書くことの指導が行われている

だろうか。あるいは、今の学生さんたちが、教員になって定年になる頃、全く同じ枠だといえるだろうか。同じでいいと言ってはいけないのではないか。そのように考えたとき、私たちは、硬筆にしても毛筆にしても、国語科にしても芸術科にしても書くということを教えている。それは見かけの問題でもあるし、動作の問題、手の動きという問題でもあるし、身体の問題でもある。そういったあたりを突き抜けていく、突き抜けていける要素をたくさん含んだ今日の発表だった。

#### 法水

石川県のこの連盟の組織のすばらしい点は、6校種がそろっているということ。これは全国に例がない。だから、本当に特別支援教育学校の教育も大事に考える必要がある。

県立養護学校での大会、今でも覚えているのだが、一番後ろの女の子が授業が終わって「はー疲れた」ともらしたことに、みんな現場の先生が感動して帰った。それがこの大事な場面に育ててほしいことのひとつである。

また、今、機器を使った教育が、ずいぶん特別支援学校で力になっている。私は、硬筆と毛筆とで分ける時代ではないと考えている。手書き文字と手書きでない文字でくくってもよいのではないか。手書き文字の書字、印刷文字の印字、電子文字の電字、さらにこの3つに加え、会話や映像を文字に転化する機器が開発されているので4つの文字環境がある。この中で手書き文字をどう後の世に伝えるか、それをこの連盟の6校種の支援で、大きく育て、石川県から全国に発信をしていただけるよう願っている。

#### 水田

皆さんの研究の結果を聞かせていただき、3人の先生方、よくやっているなと感心した。

皆さんの頭の中は、書道と書写がごっちゃになっているような気がする。小学校の書写は、文字を正しく整えて書くということをねらいとしている。3年生から毛筆だが、これは毛筆というよりも硬筆の文字が正しく書けるために毛筆があるわけである。止めやはらいを区別し、はっきりさせるために毛筆がある。整った字体を作るということ、これは書写である。小学校の高学年になると、文字の配置や配列が入ってくる。そして中学校へ上がると今度は、字形を整えて速く書くという学習になり、行書というものが加わる。中学3年までいくと、やや芸術まで昇華している。そして高校へ行くと、芸術科書道となる。しかし、芸術科書道といっても、用美一体で、用だけ、美だけの世界ではない。

もう一つ言いたいことは、特に低学年では正しい姿勢で、正しい執筆で書かなければならないが、姿勢についてふれられていない。姿勢については、正しいものをひとつ出し、悪いものを二つ三つ、「これはだめ」と指導すれば、いいものと悪いものがはっきりする。悪いものはこんなものと例を挙げ、本当にいいものについては何も挙げないのでは困る。

指導者というのは、小学校における書写はどんなものをやるのか、それから中学校では何をやるのか、高校では何をやるのかということを知った上で教えなければならない。小学校だけやり、こっちはどうでもいいではつながりがない。

また、パソコンその他でいろいろ活字が使われているが、手書き文字と活字とはどのように違うか考えていかなければならない。教科書体という活字はどこまでも活字だけれど、これは書写のひとつの規準を示すものである。明朝体活字は決して書写の基本じゃない。教科書体は手書きの文字を活字にしたものであり、それを規準にして考えていかなければいけない。

みなさん大変研究をされているが、自分の狭いところだけ研究するとなんにもならない。幅

の広い中で研究し、その中で自分はこういうことを担当しているのだということを考えていただくとうい。

～最後に～

**折川**

「書写書道基礎」の授業は、3人の先生方のご尽力によって、毎年すばらしい内容に仕上がっているとらえている。しかし、敢えて欲を言うのであれば、次のような目線があってもよいのではないかと感じることもある。それは、書写指導を苦手とする教師の目線である。ここに集っていらっしゃる先生方は、書写書道に非常に熟達して洗練された字を書ける先生方だと思ふ。しかし、そうではない教師たちもたくさんいる。小学校は、ほとんどの教師が国語科を担当し、書写の指導を行う可能性を持っている。けれど、その教師たち全員が書写に対して自信を持っているわけではない。腕の立つ人達は、それくらいできて当然だという意識を持ってしまう。けれど、私たちはそんなスーパーマンではない。そんな中で、書写指導をやっていかなければならないという立場に置かれている。先生方にもそうした意識というのを片隅に持っていていただけるとありがたい。

**宮下**

まだまだ話はずきないが、いいところに目をつけて、問題提起したのではないかと思う。来年再来年と、もうしばらくこの「大学の授業」に注目しながら、書写書道教育を考えていきたい。

## 研究協議会 II

# 児童の気付きを大切にした毛筆指導（6年） ～気付かせる手立てと指導のポイント～

岐阜市立三輪南小学校 校長 戸崎 浩志

## 【概要】

書写指導、とりわけ毛筆指導が難しいのは、日常生活において、児童が筆を持つ機会が皆無に近いからである。それゆえに、限られた毛筆指導の時間で、教師はいかに分かりやすく指導をするかが、大きな課題である。そして、分かりやすく指導するためのキーワードは「児童の気付き」であると考えた。

児童に気付かせたいことが3点ある。一つ目は、どんな作品が書きたいのか、どんな作品を目指すのかということである。二つ目は、課題（書く文字）ごとのポイントである。ポイントを「難しい点」「失敗しやすい点」「気を付けさせたい点」と考えて指導する。三つ目は、児童が実際に書いた自分の作品のどこに問題があるのか、手本とどこが違うのかということである。

児童は、毛筆で書く経験が少ないゆえに、なぜ思うような作品が書けないのか、自分の作品のどこを直せばよいのか気付くことができず、戸惑うケースが少なくない。個別指導は大切だが、その前に児童自らが自分の課題に気付いて、意欲的に作品づくりに取り組む姿を目指していきたい。

## 1. はじめに

書の文化は、日本の伝統的な文化である。大切に継承していきたいと思い、書写の時間の導入で指導する。書写学習の意義を理解させ、下記の書写の授業の心構えをもたせる。

- ① 書写の時間は、いつも自分が書いている字を書くのではなく、勇気をもって手本の字を書く時間である。
- ② 書き慣れた字ではなく、手本の字を書く不安と闘う、自分自身との真剣勝負である。
- ③ 自分が書きたい作品（字）を思い描く。
- ④ 書く技術を身につける。
- ⑤ そのために、集中力、気合い等を大切にする。

## 2. 児童に気付かせるための手立て

### (1) 目指す作品に気付かせる手立て

手本は、実物大がよい。教科書の大きさでは小さい。書く字が小さくなってしまいう心配がある。実物大の手本を配付して、大きさと線の太さを実感させる。（気付かせる。）

また、同時に「力強い作品例」も提示して、作品づくりの参考にさせたい。児童の個性の豊かさを考え、作品づくりの意欲に繋がることを意図している。ただし、ここで気を付けなければならな

いことは、「力強い作品」は、単に太い線で書かれているわけではなく、筆使いの基礎・基本を踏まえた上での作品であることを理解させることである。「個性」とは、あくまで、基礎・基本を踏まえたものでなくてはならないと考える。

一般的な手本と「力強い作品例」をA3サイズに拡大して比較させると、目指す作品に気付かせることができる。

### (2) 課題のポイントに気付かせる手立て

6年生の毛筆の課題は、「うぐいす」、「友情」「道」、「街」、「名月や池をめぐりて夜もすがら」「希望の春」、「創造する心」などである。

「うぐいす」のポイントは、

- ① ひらがなの筆使い（漢字の筆使いとの違い）
- ② 4つの文字のバランスと行の中心
- ③ 「す」の結ぶところ

以上3点のポイントに気付かせるためには、漢字の筆使いをした失敗例を提示し、手本と比較させる。行の中心や「す」についても同様に、失敗例を黒板に貼っておく。そうすれば、児童が自分で書いた作品と失敗例や手本とを比べて、自己評価できる。ひらがなは、鉛筆で毎日のように書いているので、誰でも癖がついているので、気を付け

させたい。

「友情」のポイントは、

- ① 「情」が収まらないこと（はみ出てしまうか、平たくなってしまう。詰まった感じになる。）
- ② 「友」の右はらい
- ③ 「情」の書き順

この課題の一番難しいところは、「情」が収まらないことである。つくりの「青」の上部横画を太く書いてしまうと下部の「月」が平たくしか書けない。ここに収まらない原因があるので、その失敗例を提示する。そもそも漢字は、縦画より横画が多いので、楷書は横画をやや細めに書くことは「鉄則」である。もう一つこの課題で指導したいことは、書き順である。「情」を正しい書き順で書ける児童は、意外と少ないからである。

「道」と「街」のポイントは、

- ① 半紙の中央に書くこと
- ② 文字の大きさと太さのバランス
- ③ 「右はらい」や「右上はらい」

実物大の手本が児童の気付きに威力を発揮する。どんな大きさとどんな太さで書いたらよいか、不安に思う児童が多いからである。「右はらい」や「右上はらい」は、教師が書写用の水黒板で、模範を示すのが分かりやすい。この際、注意しなければならないのは、後方に座っている児童にとっては、見づらいことである。配慮したい。

小筆「名月を・・・」のポイントは、

- ① 全体的に、文字の大きさと線の太さを揃えること（漢字はひらがなに比べてやや大きい）
- ② 行の中心
- ③ 行間を揃えること

児童にとって、小筆を使う時は作品に名前を書く時ぐらいで、俳句を書く経験はまずないと思われる。そこで、3つの失敗例を示すことによって、①～③の大切さに気付かせたい。文字の大きさや線の太さが極端に揃っていない作品や行の中心がずれてしまっている作品、行間が揃っていない作品を提示することによって、書く時に意識させる。

「希望の春」のポイントは、

- ① 横画を右上がりに書くこと
- ② 漢字とひらがなのバランス
- ③ 「希」の書き順

画数が多い漢字が3つとひらがな1つのバランス

をとるのが難しい課題である。また、「希望」という言葉のもつ意味を表現するためにも、横画を右上がりにして、勢いのある明るい作品を作らせたい。右上がりの素晴らしさを実感させたるために、まっすぐな作品や右下がりの作品を提示する。

日頃、鉛筆で右上がりの文字を書かない児童にとっては、強く意識して書かないと右上がりの線は書くことができない。自分では、右上がりの作品を書いたつもりでも、実際はそうになっていないことがしばしばある。そんな時、自分の作品を手本や失敗例の作品を見て比較させ、気付かせたい。

「創造する心」のポイントは、

- ① 行の中心
- ② 漢字とひらがなのバランス
- ③ 名前の入れ方（書き方）

書きぞめ用の課題である。半紙ではなく、長い紙に書く。これまた、あまり経験したことがないので、児童にとって、ハードルは高いと思われる。そこで、次の3つの手立てで指導したい。第一に、書くときは机の上ではなく床で書かせたい。教室の床、廊下、体育館、多目的室などがよい。書き易い行の中心を取り易いからである。行の中心を意識して書かせるためには、前に書いた文字を見て、第1画の場所を決めさせることが大切なことは言うまでもない。床で書かせる場合には、墨で汚れないような対策が必要である。第二に、やはり、失敗例を提示して、漢字とひらがなのバランスの取り方について気付かせる。第三には、名前のスペースは気にしないで伸び伸びと大きく書くようアドバイスする。この課題は、ひらがなが入っているので、その部分にスペースが取れる。名前が、小さく細くならないよう指導する。

### (3)自分の作品の問題点に気付かせる手立て

児童は、自分で書いた作品の問題点（課題）に気付くことができない場合がある。たとえ気付くことができたとしても、どのように直したらよいか分からない時もある。それを解決する手立てが3つある。

- ① 机間巡視して、個別指導する。
  - ② 添削指導する。（作品に朱を入れて返す。）
  - ③ 練習シートで感覚をつかませる。
- ①と②は、教師が児童に気付かせる手立てとして



有効である。それに対して③は、児童自身が自分で気付くことを意図した手立てである。開発した「練習シート」について説明をする。

書写（毛筆）の時間は、児童にとって、慣れない筆を使って、慣れない字を書く時間である。その不安を少しでも解消させたいと思い作成したのが「練習シート」である。「手本」の文字（作品）を体感させたいと考えた。「練習シート」は課題ごとに、数種類作成した。

この「練習シート」で、気付かせたいことは、下記のとおりである。

- ・文字の配置
- ・行の中心
- ・文字の大きさ
- ・文字の線の太さ
- ・基本的な筆遣い
- ・文字の形
- ・漢字の書き順 など

「練習シート」の使い方は、児童の実態に合わせて、授業の始めや途中などで有効な活用方法を教師が決める。児童が「練習シート」の使用に慣れてきたら、児童が、どの練習シートをどのタイミングで使用するか、自分で判断させたい。

児童は、自分で書いた作品と手本や失敗例と比較して、直すべき所に気付き、進んで練習するようになるであろう。また、「練習シート」によって、それをどのように直していったらよいのか気付くことができるのではないかな。

右上がりを書くことや横画をやや細く書くことなどは、分かっているつもりでも、意識していても、なかなか思うように書けないものである。だから、「練習シート」で、実際に右上がりを書いてみたり、横画をやや細く書いてみたりすることが、新たな「気付き」につながると考えた。

### 3. 教材を使用するにあたって（授業展開例）

書写の授業の中で、教材をどのように使用したらよいのか、授業展開の例を示すと次のとおりである。原則として、1つの課題を2時間で仕上げることにしている。

#### (1)1時間目（第1時）の授業展開

①本時の課題（書く文字）の確認をする。手本の

掲示（B紙の大きさがよい。）同時に「力強い作品例」も掲示する。（A3の大きさ）

②読み方、書き順の確認

③課題を書くときのポイントを説明する。その際、失敗例をいくつか提示して、手本との違いに気付かせる。

④半紙に数枚練習させ、作品を自己評価させる。

⑤「練習シート」で感覚をつかませる。

⑥半紙に練習をさせる。（机間巡視をして、個別指導にあたる。）

⑦1枚提出させる。

※提出させた作品には、コメントとして優れている点を記入するとともに、直すべき点について朱を入れる。（次時に返却）

#### (2)2時間目（第2時）の授業展開

①清書の時間であることの確認をさせる。

②前時に書いた作品を反省させ、ポイントを再確認させる。（力強い作品も失敗例も掲示する。）

③自分の課題を意識して、「練習シート」で感覚をつかませる。

④半紙に練習をさせる。（机間巡視をして、個別指導にあたる。）

⑤清書を1枚提出させる。

※清書には、朱を入れない。別紙にコメントを書き、貼り付ける。

### 4. おわりに

児童皆が、楽しく書写学習に取り組んでほしい、教師もまた、自信を持って楽しく指導にあたってほしいと願い、この教材を作ってみた。

教材を使用するにあたっては、細かな留意点があるので、「指導のポイント」として作成した。

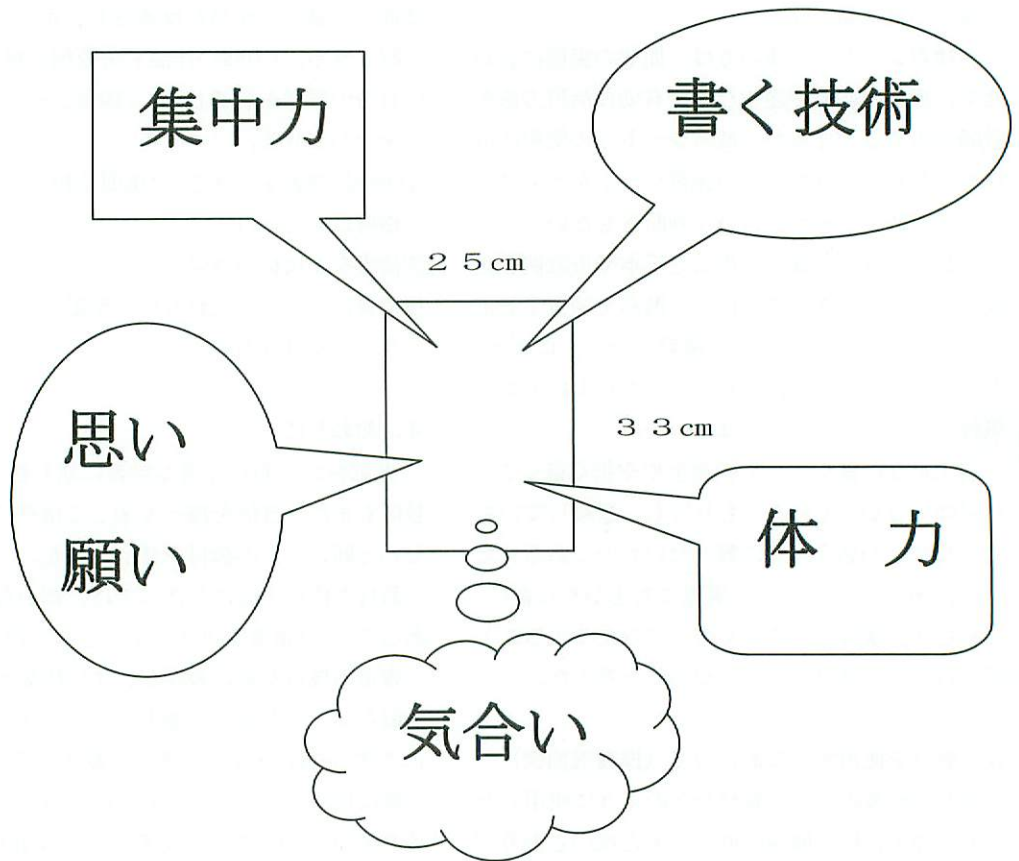
書道の技術が高い教師が、よい授業ができるとは限らない。児童への要求が高くなり、書写嫌いにさせる心配がある。逆に、書道が苦手な教師が丁寧に指導することにより、伸び伸びとした作品を作らせていることもある。どんな教材があれば、児童は分かりやすいか、教師は指導しやすいか、さらに追求していきたい。

今後は、「書くリズム」に注目させるために、「毛筆ビデオ」を作成しようと考えている。

# 「書写」は、

自分のすべてを

25 cm × 33 cmの小さな紙（半紙）に  
表現するところに美しい世界がある。



## 《書写指導の心得十箇条》

一 我流はいけない。基礎基本を学ばせる。

二 書くことを嫌いにさせてはならない。寝めて育てることを忘れない。

三 教師自身、書くことが好きで、教えることが楽しいと思える教師でありたい。もしくは、そうなりたいと努力できる教師でありたい。

四 「準備から授業への心構えを作ろう。」と呼びかけて指導する。

五 教師は、課題（作品）のポイントをしっかり理解しておかなければならない。

六 子どもに使っている筆を見る。どんな筆を使っているかチェックすべきである。

七 半紙いっぱい大きく大きく書かせたい。筆文字の良さは、第一に元気と大胆。

八 後始末も書写のうち。筆は洗わないと次は使えない。道具を大切にさせる。

九 練習作品に朱を入れて指導することは、効果がある。

十 「書写」の学習の目的を語って教える。

## 《書写（毛筆）授業十箇条》

- 一. 課題のポイントを分かりやすく説明する。
- 二. 失敗例（失敗しがちな例）を提示して、説明する。
- 三. 手本を提示して、説明する。（特に注意する点の確認）
- 四. 実際に書く様子を提示する。（DVDの使用）
- 五. 練習シートで形、大きさ、太さを体感させる。
- 六. 時間配分をする。（時間内に終わる。）
- 七. 道具の後片付けの指導をする。（筆、硯など）
- 八. 書き終えた後の指導をする。（ゴミの処理など）
- 九. 二時間単位で作品を仕上げる。（練習と清書）
- 十. 作品の評価を工夫する。（練習の時と清書の時）

## 毛筆学習の準備と後片付け十箇条

（最初の毛筆学習の留意点）

- 一、授業が始まる前に、隣の児童と机を少し離させておく。（隣の児童と接触しないために）
- 二、大筆は全部おろすように指導する。小筆は三分の一程度おろす。
- 三、おろした後は、大筆のキャップはしない。（捨てさせる。キャップに収まらないので、筆が傷むから）
- 四、小筆は、キャップをする。（穂先を傷めないようにするため）
- 五、手本、硯、筆、墨汁等の名称と置き場所を教え、覚えさせる。
- 六、ホチキスで止めた新聞紙を準備させる。（書いてものを保管させるため）
- 七、大筆の後片付けは、墨を新聞紙でよく拭ってから、必ず水洗いをする。（墨汁で固まるから）
- 八、小筆も使ったら、大筆同様に丁寧に片付ける。（小筆はキャップをする。）
- 九、硯は、必ず新聞紙や練習した半紙できれいに拭いてからしまう。
- 十、静かに落ち着いて、準備や後片付けをするよう指導する。（準備や後片付けも大切な学習）

## 研究協議会Ⅱ

### 授業実践に向けての具体的手だてを探る～授業実践から～

発表者 戸崎 浩志 先生 (岐阜市立三輪南小学校)  
司 会 西脇 良樹 先生 (志賀町立下甘田小学校)  
記 録 岡山 佳代 (かほく市立宇ノ気小学校)

実践発表「児童の気付きを大切にした毛筆指導」

～気付かせる手立てと指導のポイント～

#### ◇発表者より

限られた毛筆指導の時間において、教師がいかに分かりやすく指導をするか、「児童の気付き」にポイントにおいて実践している。

#### 気付かせる手立て

- ・一般的な手本と力強い作品例を比較し、目指す作品に気付かせる。
- ・実物大に拡大した手本を配布し、大きさと線の太さを実感させる。
- ・失敗例（失敗しがちな例）を作成し、児童が課題のポイントに気付くよう促す。
- ・添削指導等を行い、自分の作品の問題点に気付かせ、解決する手立てを講じる。
- ・練習シートを用いて、形・大きさ・太さを体感させる。
- ・DVDを使用し、実際に書く様子を提示することで、運筆方法をイメージさせる。

#### ◇質疑応答より

- ・どのような筆を使用しているのか。  
→中鋒で硬いもの（こしがあるもの）を使用している。
- ・DVDに映っていた運筆法は、正しいのか。  
→児童に説明することを重点に置いているため、正当なものではないかもしれないが、分かりやすくなるよう強調している。
- ・日常での硬筆の持ち方指導は、どのように行っているのか。  
→担任ではないので、日常の持ち方は把握できないが、担任が指導している。
- ・DVDに映っていた毛氈（下敷き）は、特注か。  
→中心や基準となる線が印刷された物を購入しているが、使用していない者は紙を折って書いている。

大会に参加して

## 第23回石川県書写書道教育研究大会に参加して

金沢市立伏見台小学校 松井 由紀

第20回大会の講演では、宮沢賢治の手書き文字から、謎解きのように賢治の人柄が浮かび上がりました。今大会では、どんなお話がお聞きできるだろうかと、楽しみに参加させていただきました。

金沢大学の教員養成科目「書写書道基礎」の講義・実習内容を基に、指導者たちと学生たちが考えや思いを出し合うというパネルディスカッションは、新鮮でした。

「書写書道教育に大切なもの」について、コーディネーターである石川県書写書道教育連盟会長が実際的で多角的な10の論点を示されました。

高い識見に裏打ちされ、学生たちへの温かいまなざしに満ちた、指導者たちの言葉が心に残りました。論点4「書写教育に自信のない学生に対して自信を持たせるにはどうすればよいか？」については、「ほめて伸ばす」ことと、「学んでいる人間が欲した時を逃さずに指導する」ことが大切だと話されていました。

その一方で、「お手本の字に近づけるよう練習する小中学校の書写が苦手だった」という学生の発言も忘れることができません。論点9「書写書道教育における生徒たちに対する成績評価（以下略）」については、指導者が述べておられたように、「書き手自身が、自分の字がどのように変わったかを評価できるようになる」ことが大切だと思います。

今大会のテーマは、「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」です。書写書道教育と豊かな心とのつながりについて考えさせられました。書き手が、練習によって自分の字が変化していくことに気づくことは、自己肯定感を育むことにつながると考えられます。鑑賞によって手書き文字の個性や美を見つけることは、個性を認め、美しいものに憧れる心に結びつくと思われます。

また、大会を通して、書写書道教育にまだ不慣れな指導者や、手書き文字に苦手意識をもつ学習者への温かな視線を感じました。私自身小学校教員として、同僚と共に児童が手書き文字に自信をもてるように指導していきたいと、気持ちを新たにしました。

手書き文字のよさ・美しさと、それを伝えていく書写書道教育の大切さに気づかせてくれた大会でした。会長様をはじめとする石川県書写書道教育連盟の皆様、発表者の方々、ありがとうございました。



## これからの書写書道教育を見据えて

金沢大学学校教育学類国語専修2年

石塚 悠子

坂田美穂乃

高森まどか

宮井 理恵

今まで書写書道についての研究大会があることを知りませんでした。今大会は、現場の先生方からの生の声を聞くことができる大変貴重な場であったので嬉しく思いました。会場を訪れると、多くの先生方が真剣に書写書道に向き合っている姿や50年100年先の書写書道について考えている姿にとっても刺激をうけました。

私たちは大学の講義の中で、小・中・高と今まで自分が受けてきた書写書道教育を見つめなおし、書写書道教育には問題が山積みであることを知りました。これまで、書写書道教育に対してあまり真剣に考えたこともなく書写書道は苦手だなど、あまり良いイメージを持っていなかった私たちにとって講義で三人の先生方がしてくださった授業は、とても新鮮で目からうろこのようなものでした。先生方の授業は明確な意思を持ったものであり、これから目指されるべき書写書道教育の姿ではないかと感じ、字を書くことはこんなに楽しいことなのだと思いました。

今回参加させていただいたディスカッションでは、そういった先生方の授業の目的を改めて聞くことができましたし、また現場の先生方が今まさにぶつかっている課題や、座学では決して感じることでできない使命感や責任感といったものを肌で感じることで非常に有意義なものとなりました。しかし、今までの教育現場でいわゆる「良くない授業」というものが長く行われてきたということを考えると、書写書道教育が抱える問題は一朝一夕で解決できるようなものではないということも感じました。学生と共に考えディスカッションするという点では、この場が授業の感想を發表するというにとどまってしまったことがとても残念ではありますが、学生の声を生かす場を作っていただいたことに感謝しております。次回はもっと熱くディスカッションに参加できることを楽しみにしています。

さまざまな意見を通して、まもなく教壇に立つであろう私たちがこの書写書道界の問題を担い、現状を打破していくのだという意識が自分たちの中で確かなものとなりました。字がきれいにかけない、子どもの前でお手本を示せないなどの書写書道に対してのコンプレックスや不安はまだまだありますが、三回の講義や本大会で大分解消され、乗り越えていこうと前向きにとらえることができるようになってきています。とはいえまだまだ未熟でありますので、今大会で学んだことを元にすでに教鞭を取られている先生方と力を合わせながら立ち向かっていきたいと思ひます。

連 盟 の あ ゆ み

連 盟 役 員 一 覧

連 盟 規 約

## 石川県書写書道教育連盟のあゆみ

1987. 1. 23  
(昭和62年) 有志が集い県下に校種一貫した書写書道教育研究組織設立に向けて懇談する会を発足させる。  
(1988. 2. 26迄に9回の会合を開く)
1988. 4. 22  
(昭和63年) 石川県書写書道教育懇談会と改称し第1回の会合を持つ。[金沢大学教育学部書道演習室]  
(1995. 10. 5迄に48回開催する。)
1989. 8. 29  
(平成元年) **石川県書写書道教育連盟設立総会** [ホテル六華苑]  
<平成2年度に第1回石川県書写書道教育研究大会開催することを決定>

### 平成元年度 石川県書写書道教育連盟役員 (敬称略)

名誉顧問	金子曾政<元金沢大学学長>	
顧問	南 和男<石川県教育長>	
相談役	北西正二 坂口 敏 田島庄吉 久田久信 氷田茂良 横西 清	
会長	藤 則雄<金沢大学教育学部長>	
副会長	[石川県教育委員会学校指導課長]	三宅正敏
	[金沢市小学校教育研究会書写部長]	河本隆成<金沢市立馬場小教頭>
	[金沢市中学校教育研究会習字部長]	大野重幸<金沢市立金石中校長>
	[石川県高等学校教育研究会書道部会長]	佐藤政俊<金沢女子高校長>
	[石川書写の会会長]	山田泰正<鹿島町立越路小校長>
	[金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者]	法水光雄<金沢大学助教授>
理事長	[金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者]	兼 任
副理事長	: 幼・保部: 嘉門久直<森本幼稚園長>	
	: 小学校部: 森川登夫<津幡町立中条小校長> 谷村修次<小松市立蓮代寺小校長>	
	: 中学校部: 松寺淳照<金沢市立森本中教頭>	
	: 高校部: 中山武久<津幡高校教諭>	
監事	吉田一郎<小松市立向本折小校長> 木本峰生<七尾市教育委員会学校教育課長>	
理事	: 県教委学校指導課: [小学校・中学校(国語科書写)担当指導主事] 永井志津子 [高等学校(芸術科書道)担当指導主事] 高沢幹夫	

#### \* 金沢地区

- : 幼・保部: 青山洋子<みどり・かわい幼稚園副園長>
- : 小学校部: 林 道子<南小立野小教諭> 中川晃成<館野小教諭>
- : 中学校部: 干場和子<野田中教諭> 古本佳世<野田中教諭>
- : 高校部: 林 昭悦<金沢女子高教諭> 石浦義彦<金沢泉丘高教諭>
- : 障害児学校部: 南 進 <県立養護学校教頭>

#### \* 加賀地区

- : 小学校部: 穴田孝子<三谷小校長> 川筋登史己<向本折小教頭> 市村良二<木場小教諭>
- : 中学校部: 阿戸壮一郎<丸ノ内中教頭>
- : 高校部: 東野洋子<小松市立女子高教諭> 北室正枝<金沢西高講師>
- : 障害児学校部: 川上千鶴子<小松養護学校高等部主事>

#### \* 能登地区

- : 小学校部: 西野和代<天神山小学校校長> 福田教導<金ヶ崎小学校教頭>
- : 高校部: 嬉喜代子<飯田高校教諭> 大場豊治<七尾高校教諭>

事務局

:事務局長: 永江芳教<金沢商高教諭>  
:副事務局長: 久田英夫<金沢中央高校教諭> 中川晃成<館野小教諭>  
:庶務部: 部長・中田稚子<森本中教諭> 副部長・宮嶋雅美<明和養護学校教諭>  
:会計部: 部長・佃さえ子<千代野小教諭> 副部長・八田和幸<鳴和中教諭>  
:研究部: 部長・金田京子<宇ノ気小教諭> 副部長・嵐 雪絵<金大付属中講師>  
:会報部: 部長・板橋法子<河南小教諭> 副部長・西尾恵美子<中島小教諭>大坂育代<湯野小教諭>  
:研修部: 部長・八田和幸<鳴和中教諭> 副部長・北村千恵<山中小教諭>  
:調査部: 部長・大浦 努<大浦小教諭> 副部長・宮崎聡美<松波小教諭>西川真理<野々市小教諭>

1989. 11. 15 第4回全国大学書写書道教育学会・平成元年度全国大学書道学会  
~17 ・平成元年度日本教育大学協会全国書道教育部門会《後援》  
12. 1 第1回理事会 [金沢商業高等学校]  
12. 10 『石川県書写書道教育』(創刊号) 発行

(平成 2年度)

1990. 5. 18 第2回理事会 [金沢商業高等学校]  
10. 1 『石川県書写書道教育』(第2号) 発行

11.19

**第1回石川県書写書道教育研究大会**  
[金沢市立南小立野小学校・金沢市立野田中学校・石川県立金沢泉丘高等学校]  
**公開授業 小学校2年・中学校1年・高等学校1年**  
**講演 久米 公先生 (文部省視学官・千葉大学教授)**  
**演題:「新学習指導要領のめざす書写書道の学習指導」**

11.19 第3回理事会  
1991. 2. 23 第4回理事会  
3. 1 『石川県書写書道教育』(第3号) 発行

(平成 3年度)

6. 4 第5回理事会 [金沢商業高等学校]  
10.30 『石川県書写書道教育』(第4号) 発行

11.18

**第2回石川県書写書道教育研究大会**  
[野々市町文化会館・野々市町立野々市小学校・石川県立養護学校]  
**公開授業 小学校1年・6年 学校公開 養護学校クラブ活動等**  
**講演 續木湖山先生(帝京大学教授)**  
**演題:「児童生徒の心を引きつける具体的な指導方法」**

11.18 第6回理事会 [野々市町文化会館]  
1992. 3. 26 第7回理事会 [金沢ガーデンホテル]  
3.30 『石川県書写書道教育』(第5号) 発行

(平成 4年度)

5.28 第8回理事会 [金沢中央高等学校]  
10.20 『石川県書写書道教育』(第6号) 発行

11.18

**第3回石川県書写書道教育研究大会 [金沢市立鳴和中学校]**  
**公開授業 中学校1年**  
**講演 久米 公先生 (千葉大学教授) 演題:「学習指導の最適化のために」**

11. 18 第9回理事会 [金沢市立鳴和中学校]  
1993. 3. 30 『石川県書写書道教育』(第7号) 発行
- (平成 5年度)  
6. 4 第10回理事会 [金沢中央高等学校]
- 11.11 **第4回石川県書写書道教育研究大会**  
[石川県立金沢商業高等学校・金沢市立富樫小学校・石川県立金沢泉丘高等学校]  
**公開授業 小学校3年 高等学校1年(2)**  
**講演 田中東竹先生(実践女子大学教授)**  
**演題:「江戸時代の書教育—川柳に見る手習い—」**
11. 11 第11回理事会  
3. 31 『石川県書写書道教育』(第8号) 発行
- (平成 6年度)  
6. 4 第12回理事会 [金沢中央高等学校]
- 10.19 **第5回石川県書写書道教育研究大会**[小松市立女子高等学校・小松市立安宅小学校]  
**公開授業 小学校6年 高等学校1年**  
**講演 柳下昭夫先生(東京家政大学講師・前教育課程審議会委員)**  
**演題:「文字感覚を養い、自ら学ぶ意欲を高める書写書道教育のあり方」**
10. 19 第13回理事会  
12. 1 『石川県書写書道教育』(第9号) 発行  
1995. 3. 30 『石川県書写書道教育』(第10号) 発行
- (平成 7年度)  
6. 6 第14回理事会 [金沢商業高等学校]  
9. 20 『石川県書写書道教育』(第11号) 発行
- 10.20 **第6回石川県書写書道教育研究大会**[鹿島町立越路小学校・ラピア鹿島]  
**公開授業 小学校3年 研究発表 養護学校**  
**講演 浦野俊則先生(二松学舎大学教授) 演題:「漢字は生きている」**
10. 20 第15回理事会 [鹿島町立越路小学校・ラピア鹿島]  
1996. 3. 『石川県書写書道教育』(第12号) 発行
- (平成 8年度)  
4. 25 第16回理事会 [金沢商業高等学校]  
6. 6 第17回理事会 [金沢商業高等学校]  
10. 『石川県書写書道教育』(第13号) 発行
- 11.21 **第7回石川県書写書道教育研究大会**[金沢市立弥生小学校・石川県立金沢中央高等学校]  
**公開授業 小学校4年 高等学校2年次 研究発表 中学校**  
**講演 平形精一先生(静岡大学教授) 演題:「意欲を高めるための書写書道教育」**
11. 21 第18回理事会 [石川県立金沢中央高等学校]

1997. 3. 『石川県書写書道教育』（第14号）発行

(平成 9年度)

6. 25 第19回理事会 [六華苑]

10. 『石川県書写書道教育』（第15号）発行

11.21

**第8回石川県書写書道教育研究大会[加賀市立南郷小学校・加賀市文化会館]**

**公開授業 小学校4年 高等学校2年次 研究発表 中学校**

**講演 宮澤正明先生(山梨大学助教授)**

**演題:「実験を通して考える書写・書道」—「手本が無くてかける」をめざして—**

11. 21 第20回理事会 [加賀市文化会館]

1998. 3. 『石川県書写書道教育』（第16号）発行

(平成10年度)

7. 18 第21回理事会 [六華苑]

10. 『石川県書写書道教育』（第17号）発行

11. 2

**第9回石川県書写書道教育研究大会[内灘町立大根布小学校・内灘文化会館]**

**公開授業 小学校3年 研究発表 中学校・大学**

**講演 平形精一先生(静岡大学教授)**

**演題:「これからの書写・書道教育の方向と課題」**

11. 2 第22回理事会 [内灘文化会館]

1999. 3. 『石川県書写書道教育』（第18号）発行

(平成11年度)

6. 16 第23回理事会 [六華苑]

9. 『石川県書写書道教育』（第19号）発行

10.19

**第10回石川県書写書道教育研究大会**

**[七尾市立天神山小学校・七尾市立幼稚園・七尾サンライフプラザ]**

**公開授業 小学校5年 公開学習 幼稚園 研究協議会**

**講演 久米 公先生(大東文化大学教授)**

**演題:「書写・書道教育における今日的課題」**

10. 19 第24回理事会 [七尾サンライフプラザ]

2000. 3. 『石川県書写書道教育』（第20号）発行

(平成12年度)

6. 9 第25回理事会 [六華苑]

10. 『石川県書写書道教育』（第21号）発行

12. 7

**第11回石川県書写書道教育研究大会[金沢勤労者プラザ]**

**パネルディスカッション 研究発表**

12. 7 第26回理事会 [金沢勤労者プラザ]

2001. 3. 『石川県書写書道教育』（第22号）発行

(平成13年度)

6. 9 第27回理事会 [六華苑]  
10. 『石川県書写書道教育』(第23号) 発行

12. 6

**第12回石川県書写書道教育研究大会[根上町総合文化会館]**

**研究協議**

**講演 町川 哲先生(香川県土庄小学校教諭)**  
**演題:「書写指導における具体的実践にむけて」～香川県の実践をもとに～**

12. 6 第28回理事会 [根上町総合文化会館]  
2002. 3. 『石川県書写書道教育』(第24号) 発行

(平成14年度)

8. 8 第29回理事会 [六華苑]  
10. 23 『石川県書写書道教育』(第25号) 発行

12. 5

**第13回石川県書写書道教育研究大会[野々市町文化会館・野々市町立菅原小学校]**

**公開授業 小学校5年 研究協議**

12. 5 第30回理事会 [野々市町文化会館・野々市町立菅原小学校]

(平成15年度)

2003. 8. 27 第31回理事会 [六華苑]

12. 4

**第14回石川県書写書道教育研究大会[金沢市西町研修館・金沢大学サテライトプラザ]**

**研究協議**

12. 4 第32回理事会 [金沢大学サテライトプラザ]

(平成16年度)

2004. 8. 10 第33回理事会 [六華苑]  
12. 『石川県書写書道教育』(第26号) 発行

12.10

**第15回石川県書写書道教育研究大会[松任市市民交流センター・松任市立蕪城小学校]**

**公開授業 小学校3年・6年 研究協議**

12. 10 第34回理事会 [松任市市民交流センター]

(平成17年度)

2005. 10. 3 第35回理事会 [六華苑]

12. 9

**第16回石川県書写書道教育研究大会[金沢市教育プラザ富樫]**

**研究協議**

12. 9 第36回理事会 [金沢市教育プラザ富樫]

(平成18年度)

2006. 9. 25 『書写コンテンツ』開発(平成18～19年度)  
第37回理事会 [金沢大学サテライトプラザ]

- 11.27 **第17回石川県書写書道教育研究大会[石川県立小松明峰高等学校・小松市立串小学校]**  
公開授業 小学校3年・高等学校1年 研究協議
- 11.27 第38回理事会 [石川県立小松明峰高等学校]
- (平成19年度)  
2007.10.18 第39回理事会 [兼六荘]
- 12.4 **第18回石川県書写書道教育研究大会[金沢市立三谷小学校]**  
公開授業 小学校5年 研究協議
- 12.4 第40回理事会 [金沢市立三谷小学校]
- (平成20年度)  
2008.10.31 第41回理事会 [兼六荘]
- 12.12 **第19回石川県書写書道教育研究大会[金沢市教育プラザ富樫]**  
研究協議
- 12.12 第42回理事会 [金沢市教育プラザ富樫]
- (平成21年度)  
2009.8.27 第43回理事会 [兼六荘]  
第44回理事会 「全日本書写書道教育研究会」 団体加盟承認
- 12.2 **第20回石川県書写書道教育研究大会[金沢市立諸江町小学校・金沢市立高岡中学校]**  
公開授業 小学校5年 中学校1年(2) 研究協議  
講演 法水光雄先生(福井大学教授・石川県書写書道教育連盟相談役)  
演題 『石川県書写書道教育連盟設立と書写書道教育の将来  
一人間が人間になること・文字を手書きすること』
- 12.2 第45回理事会 [金沢市立高岡中学校]
- (平成22年度)  
2010.9.30 第46回理事会 [兼六荘]
- 12.3 **第21回石川県書写書道教育研究大会[金沢市教育プラザ富樫]**  
研究協議
- 12.3 第47回理事会 [金沢市教育プラザ富樫]
- (平成23年度)  
2011.11.2 第48回理事会 [兼六荘]
- 12.8 **第22回石川県書写書道教育研究大会[志賀町立下甘田小学校・志賀町文化ホール]**  
公開授業 小学校5年 研究協議
- 12.8 第49回理事会 [志賀町立下甘田小学校]



(平成24年度)

2012.11.30

第50回理事会 [兼六荘]

2013.1.31

**第23回石川県書写書道教育研究大会[金沢市教育プラザ富樫]**

**研究協議**

1.31

第51回理事会 [金沢市教育プラザ富樫]

平成24年度 石川県書写書道教育連盟役員

(☆:新 ★:役職変更) (敬称略)

役職	名前	勤務先	職	備考
顧問	☆ 木下 公司	石川県教育委員会	教育長	石川県教育委員会教育長
相談役	坂口 敏	金沢市寺町4-1-22(自宅)		
	久田 久信	能美市佐野才20(自宅)		
	永田 茂良	金沢市泉野4-20-16(自宅)		
	水法 光雄	福井大学教育地域科学部	教授	
	押木 秀樹	上越教育大学 学校教育学部	准教授	
参与	森川 登夫	河北郡津幡町南中条東21(自宅)		
	木本 峰生	七尾市西藤橋町レ部5(自宅)		
	谷村 修次	小松市茶屋町リ115(自宅)		
	南 進	羽咋郡志賀町高浜町レ121(自宅)		
	福田 教導	七尾市田鶴浜町深見夕3-甲(自宅)		
	永井志津子	七尾市所口町二20-1(自宅)		
	中山 武久	河北郡津幡町能瀬ウ47(自宅)		
	林 道子	金沢市本多町2-12-25(自宅)		
	石浦 義彦	能美市牛島口263(自宅)		
	林 昭悦	金沢市米泉町4-42-3(自宅)		
永江 芳教	金沢市野町3-18-10(自宅)			
名誉会長	藤 則雄	金沢市窪4-206(自宅)	金沢大学名誉教授	石川県書写書道教育連盟 前会長
会長	宮下 孝晴	金沢大学人間社会学域人文学類	教授	
副会長	☆ 平島 敏彦	石川県教育委員会学校指導課	教育次長兼課長	石川県教育委員会学校指導課長
	田中 辰実	千代野幼稚園	園長	石川県私立幼稚園協会理事長
	志水 邦子	金沢市立夕日寺小学校	校長	金沢市小学校教育研究会(書写代表)
	石井 秀雄	金沢市立芝原中学校	校長	金沢市中学校教育研究会書写部長
	表 純一	石川県立金沢錦丘高等学校	校長	石川県高等学校教育研究会書道部会長
	☆ 松原 清	石川県立盲学校	校長	石川県特別支援学校校長会代表
	☆ 不破恵美子	白山市立白峰小学校	校長	石川書写の会会長
	折川 司	金沢大学人間社会学域学校教育学類	准教授	金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者
理事長	中川 晃成	野々市市立館野小学校	教諭	
副理事長	濱田美恵子	金沢市立四十万小学校	教頭	
	高 絹子	七尾市立田鶴浜中学校	校長	
	古本 佳世	金沢市立額中学校	教諭	
	☆ 菊田三代治	石川県立盲学校	教頭	石川県特別支援学校教頭会代表
監事・理事	石野 昌子	金沢市立扇台小学校	教諭	
	白石 芳子	金沢市立西南部中学校	教諭	金沢市中学校教育研究会書写部会幹事長
理事(教育委員会)	谷藤真喜子	石川県教育センター研修課	指導主事	県教委 小・中学校(国語科書写)担当指導主事
理事(庶務部長)	荒家 直子	石川県教育委員会学校指導課	指導主事	県教委 高等学校(芸術科書道)担当指導主事
理事	[田中 学]	石川県立金沢中央高等学校	教諭	
事務局長	高野 正人	志賀町立高浜小学校	校長	
副事務局長	岩田 稚子	金沢市立高岡中学校	教諭	
	八田 和幸	津幡町立津幡南中学校	教諭	
	水上真由美	石川県立金沢伏見高等学校	教諭	
庶務部	部長	田中 学	石川県立金沢中央高等学校	教諭
	副部長	佃 さえ子	白山市立松任小学校	教諭
	部員	西脇 良樹	志賀町立下甘田小学校	教諭
		永井 重輝	金沢市立大野町小学校	教諭
会計部	部長	西尾恵美子	能美市立浜小学校	教諭
	副部長	山口 雅美	金沢市立三馬小学校	教諭
	部員	橋本 美紀	志賀町立上熊野小学校	教諭
研究調査部	部長	柿木 千鶴	白山市立松陽小学校	教諭
	副部長	飯田 淳一	内灘町立清湖小学校	教諭
	部員	坂井 雪絵	志賀町立堀松小学校	教諭
		木之下知子	金沢市立杜の里小学校	教諭
		堀 順一郎	野々市市立野々市中学校	教諭
		倉下 真澄	金沢大学附属中学校	講師
		間野 清美	白山市立千代野小学校	教諭
		東山麻由美	能美市立寺井小学校	教諭
		金野 豊	金沢市立富樫小学校	教諭
		榎木 充子	金沢市立諸江町小学校	教諭
黒川なつき	白山市立蝶屋小学校	教諭		
堀口 美紗	石川県立金沢泉丘高等学校	講師		
会報部	部長	新谷 幸一	金沢市立馬場小学校	教諭
	副部長	北野 京子	津幡町立中条小学校	教諭
	部員	寺井 純子	珠洲市立蛸島小学校	教諭
		岸 瑞代	石川県立大聖寺高等学校	講師
		山澤 聡美	小松市立芦城中学校	教諭
		中辻 育代	小松市立稚松小学校	教諭
		吉田 美晴	金沢市立浅野川小学校	教諭
		水谷 清美	金沢市立田上小学校	教諭

# 石川県書写書道教育連盟規約

- 第1条（名称） 本会は、石川県書写書道教育連盟と称する。
- 第2条（本部・事務局） 本会の本部を金沢大学教育学部内におき、事務局を事務局長の在勤校におく。
- 第3条（目的） 本会は、授業研究を中心として、県内の幼稚園（保育園・保育所）・小学校・中学校・高等学校・大学（短期大学・専門学校）・障害児学校等の一貫した書写書道教育と書道文化の更なる充実発展に努めるとともに、会員相互の親睦を図ることを目的とする。
- 第4条（事業） 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。  
（1）研究会の開催  
（2）会報の発行  
（3）関連する学会・研究会・内外諸機関との連絡と協力  
（4）講演会・講習会の開催  
（5）調査研究  
（6）その他必要な事業
- 第5条（組織） 本会は、県内の幼稚園（保育園・保育所）・小学校・中学校・高等学校・大学（短期大学・専門学校）・障害児学校の教員及び本会の目的に賛同するものをもって組織する。
- 第6条（役員） 本会に、下記の役員をおく。  
会長 1名 副会長 若干名 理事長 1名  
副理事長 若干名 監事 若干名 理事 若干名  
事務局長 1名 副事務局長 若干名  
（1）事務局には、次の六部を設け、各部とも、部長1名、副部長1名、部員若干名をおくものとする。  
・庶務部 ・会計部 ・研究部 ・会報部 ・研修部 ・調査部  
（2）本会に、名誉顧問・顧問・相談役・参与を推戴することができる。  
（3）役員を選出と任期は、下記のように定める。  
（Ⅰ）役員は理事会において選出する。  
（Ⅱ）役員の任期は一か年とする。ただし、再任は妨げない。
- 第7条（理事会） 本会の理事会は、本会の運営及び事業に関する重要事項を審議決定する。  
（Ⅰ）理事会は必要に応じて、会長が召集する。  
（Ⅱ）理事会は、第6条における、会長・副会長・理事長・副理事長・監事・理事・事務局長・副事務局長・事務局各部長によって構成する。
- 第8条（会計） 本会の経費は、会費及びその他の収入をもってこれにあてる。
- 第9条（会計年度） 本会の会計年度は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。
- 第10条（監査） 本会の会計は、監事によって監査を受ける。
- [附則]
- 第11条 規約の改訂は、理事会の議決を経なければならない。

平成 元年 8月 29日 制定  
平成 2年 5月 18日 一部改定